

## 平成22年度

## 一般会計当初予算の討論

## 反対討論

福田 千富美

今、戦後最悪の不況のもとで、どのように内需を拡大し、地域経済を立て直すのか、町民の暮らしに寄り添う町政が求められている。

昨年の政権交代で一定の変化が地方に現れ、子育て支援や環境への取り組み、町民の願いであった、中学生医療費、ヒブワクチン、肺炎球菌、子宮頸ガンのワクチン接種など、前進面はあるものの、来年七月アナログ停波による有線テレビの中海委託によって、住民負担は、増加。この不況のもと税金滞納者に寄り添った生活相談活動こそ求められているのに、四月から、県と合同で、地方税滞納整理機構を創設。徴収業務の強化が図られる。敬老会補助金や贈り物までカットする。植田正治写真美術館に五千九十五万円。

生誕百年、没後十年記念行事の準備に六百万円以上つぎ込みながら、急

がれる小・中学校耐震化は、教育検討会に委ねて先送りし、競争教育、学校間格差を上げると批判の高い学力テストを今年も予定する。

同和事業は、法が終了して十五年も経つのに、今だに聖域で、地区の子どもたちの進学・就職奨励金が予定されている。大切な農林業は、九七%、商工費は、一・六%、土木費は、四・一%、教育費は、八・一%にか過ぎない。

合併時十四億円の基金は、二十八億円も積み立てられる一方、合併後さまざまなサービスは削られ、町民、職員の負担はそのまま、一向にその改善策の見えない予算であり、反対である。

## 賛成討論

野坂 明典

平成二十二年度一般会計予算は、厳しい財政環境の中で、住民の福祉・健康の保持・教育環境の整備・農業支援に配慮されている予算であります。その配慮された点を申

し上げますと、住民福祉関連の予算も例年のおり計上されております。新規に肺炎球菌、子宮頸がんなどの予防接種助成が計上されたことは、画期的である。

保育園庭の芝生化は、子供の運動能力向上に寄与するものであり、成果に期待するものである。産業面では、中山間地直接払の補助を継続し、また、県及び町でのチャレンジプランも継続。

がんばる農業者、商工業者には黒ぼくりゾート大山協議会を通して自立・活性化に多額の予算配分支援が図られている。

教育では、引き続き本町の学校のあり方について協議が進められます。学校の統廃合は、これからの議論となるが、施設の耐震化整備は、期待されます。

岸本公民館の大規模改修の設計費及び岸本駅前周辺整備の設計費の計上も高く評価される所でありあります。

以上、二十二年度一般会計予算は、厳しい財政運営の中で、住民を第一として考えられ、住民、

産業教育の確立に配慮があり、評価すべきものと考えます。

## 賛成討論

大森 英一

本予算は、政権交代後初の連立政権による「地方が自由に使える財源を増やす」という地方を重視した平成二十二年度地方財政計画を反映した予算である。

歳入では地方交付税二億四千二百万余り、前年度比八%の増額、歳出では、総務費・民生費・衛生費・農林水産費・教育費・公債費等、前年度に比べそれぞれ増額となっている。

あわせて、平成二十一年度一般会計補正予算第六号において、”きめ細やかなインフラ整備”に取り組むための財源として臨時交付金一億二千八百万円余り、経済危機対策に伴い増加する地方負担の軽減を図るため五千二百万円余りの歳入を受け、一般会計、特別会計にそれぞれ配分された。これは、伯耆町にとつ

て、必要なインフラ整備と、景気対策を全額、国の費用で行うため、少なくともその補正相当額を平成二十二年度にどう反映するか、森安町長の手腕に期待がかかる。

補正として、非常に残念なことだが、伯耆町内で五人の方が、自ら命を絶たれた。

これ以上、犠牲者を増やさないよう、物心両面の早急な対策が必要と思う。人は心に余裕がなくなると、非常にろく、他人や自分自身を傷つける傾向にある。

この厳しい時代だからこそ、助け合いの心、すなわち、これまで培ってきた人権教育、傷つきた多くの人の心を救うてきた同和教育のノウハウを活かすべきではないか。残念ながら町政の方針には人権の二文字がどこにも見当たらない。

人権の県を標榜する鳥取県の職員でもあった森安町長、紙の文字は消えても、心の文字は消すことなく、政策の中心に人をおいていただくよう強く要請し、賛成討論とする。